



鎌倉の寒桜を解剖してみたよ

遺伝研には200種類以上の桜があります。
今回はその中から「鎌倉の寒桜」を、顕微鏡も使って観察していきます。

■ 鎌倉の寒桜

鎌倉の寒桜は、種がカンヒザクラ×ヤマザクラで栽培品種は寒桜。2月上旬ぐらいから咲き始めるよ。つぼみはちょっと濃いめのピンク色、でも咲くと淡いピンク色の桜だよ。花びらは5枚で一重咲き、花の大きさはちょっと小さめだけどかわいい桜なんだ。



■ 花の観察

実際に「鎌倉の寒桜」の花を見ていこう。
桜は外から萼(がく)、花びら、雄しべ(おしべ)、雌しべ(めしべ)の順になっているよ。萼は筒のような形をした部分を萼筒(がくとう)その先に広がっているところを萼片(がくへん)というよ。
真ん中の長い黄緑色の部分が雌しべで、花びらの内側にいっぱい見えるのが雄しべだよ。雄しべはどのくらいあるんだろう?数えてみよう。

■ 花びらと雌しべ雄しべ

萼から花びらと雄しべを外してみたよ。萼片と花びらは互い違いに5枚ついてたよ。
いっぱいあった雄しべの数はいくつだろう?



桜の雄しべはだいたい30本~50本程度あるらしいんだけど、この花はどうか。雄しべを並べて数えてみよう。1..2..3..4.....45。この花の雄しべは全部で45本あったよ。雌しべに近い内側の雄しべの方が花びらに近い雄しべよりも長さが短くなってたよ。小さい花の中にたくさんの雄しべがあるんだね。

■ 雌しべ柱頭(ちゅうとう)の顕微鏡観察



まずは雌しべの先を顕微鏡で見てみたよ。先っぽの花粉がつくところを柱頭(ちゅうとう)というよ。うえの方の黄色っぽく見えるのが花粉かな~?? これって受粉してるのかな~?

■ 萼片(がくへん)の顕微鏡観察



次は萼片を見てみたよ。顕微鏡で見ると手前に葉脈

のようなすじが見えるよ。萼片にも葉脈って言うのかな? 葉脈は葉っぱにあるすじのことで、水分や栄養分を運ぶ役割をしているんだよ。

まるでヒトの「血管」みたいだね。

他にも、萼片のフチから生える白い毛みたいなものも見えたよ。普段見えないものが顕微鏡だとよく見えるね。じゃあ、花びらはどう見えるのかな?

■ 花びらの顕微鏡観察



最初に花びら全体(左)を顕微鏡で見てみたよ。

萼片と同じように、花びらにも葉脈のようなすじが見えるね。もっとアップで見てみよう!右側が花びらのアップだよ。スポンジの表面みたいになっているね。少しきらきらして見えてきれいだったよ。

■ 雌しべの子房(しぼう)



最後に雌しべの根元を見てみたよ。根元のちょっとふくらんだところが子房だよ。柱頭に花粉がつくと、この子房が育って実になるんだよ。

ふだん何気なく見ている桜も、じっくり観察すると、こういう作りをしているんだなって発見があるね。

みんなも身近なものを観察したら、案外新しい発見が見つかるかもしれないね!